



小学生がガイド 道祖神めぐり

10/12 穂高西小 30人が学習成果を発表

穂高西小学校6年2組の児童30人が10月12日、道祖神をめぐるウォーキングツアーのガイド役を務めました。これは総合学習の授業で取り組んでいるもので、子どもたちは2年ほど、道祖神の歴史や特徴を調べ、実際に案内をする練習を積んできました。観光協会も協力し、インターネットなどで参加者を募った所、県内外から37人が参加。子どもたちはこれまでの集大成を披露しました。5班班長の山内瑠花さんは、「分かりやすく大きな声で説明するのが難しかった。家族にも説明できるようになったことがうれしい」と話してくれました。



「おひさま」放送に向け そばマップ作成

11/17 市内そば店 連絡会発足

日本そばが物語の柱となる連続テレビ小説「おひさま」の放送開始に向けて、市内のそば取扱店の初会合が開かれました。この会議は、放送によって増加が見込まれる観光客への対応などを協議するため開かれたものです。この日は21店のそば屋店主ほか関係者が出席。市内のそば店マップを作成することなどを決めました。市商工会観光特産飲食部会会長の豊田修身さんは、「安曇野のそばをPRする千載一遇のチャンス。さらなる事業展開を図りたい」と参加者に協力を呼びかけました。

大人気！おじいちゃん先生

今秋から新たに2園で着任

子どもたちから「おじいちゃん先生」と呼ばれる保育協力員が市内12保育園で活躍し、子どもたちの人気を集めています。現在勤務している協力員は60歳から70歳で、午前中に在園しています。この10月からは西穂高保育園に竹田吉男さん(66)、三郷北部保育園に寺島次男さん(64)が着任しました。竹田さんは設備業を退職後、育児ファミリーサポート事業のサポーターとして活動していました。寺島さんは、以前は病院に勤務。保護者会や育成会の役を務めるなどの経験もお持ちです。11月上旬に両園を訪れると、園児たちは、おじいちゃん先生の膝の上に乗ってお話をしたり、一緒に庭木の世話をしたりして触れ合っていました。市園長会の松尾きく江園長は、「保育士、子ども、家族という関係だけではなく、幅広い世代間の関係が子どもたちには必要。おじいちゃん先生を通じて、体験の幅を広げてもらえば」と手応えを感じています。



皆で祝う 半世紀の歩み

11/6 明北小学校が開校50周年

明北小学校開校50周年記念式典が11月6日、同校で開かれました。明北小学校は、昭和36年4月、東川手・七貴の一部・南陸郷の児童を通学区として開校。これまで2,930人の卒業生を送り出しています。

式典には、在校生のほか来賓、地域住民など約400人が出席。木内昇校長は、「この50周年を機会に過去を振り返り、先人の努力や地域の皆さんの熱い思いに触れることができました」と感謝の思いを述べました。引き続き行われた呼びかけでは、在校生147人が明北小学校の50年を紹介。地域の皆さんから直接話を聞いて作成した台詞を暗唱し、卒業生などから提供された写真とともに、これまでの歩みを振り返りました。また会場には、「未来への手紙」と題した在校生全員のメッセージが張り出され、「大人になっても、たくさん子どもたちを笑顔にしてほしい」、「やさしい心をもった子どもたちがたくさんいるとうれしい」など、自分たちの学校の未来にそれぞれ願いを込めました。

文化に触れる 安曇野の秋

11/3 安曇野スタイル 初日

安曇野地域の121件の工房、ギャラリーなどが98会場で期間限定の個性的なおもてなしをするイベント「安曇野スタイル」が11月3日から7日まで行われました。インフォメーションセンターとなった穂高交流学習センター「みらい」では11月7日、多彩なイベントを開催。このうちワークショップでは、木工造形インストラクターの松尾和哉さん(明科光)が講師となり、木を使った手作りの弦楽器を作りました。集まった親子連れなどの参加者は、制作の手順や音の仕組みなどを聞きながら、自分だけの楽器を完成させました。



無火災の願いを込めて

11/14 市消防団音楽喇叭(ラッパ)隊演奏会

市消防団音楽喇叭隊による初コンサートが秋の火災予防運動期間中の11月14日、豊科公民館ホールで開かれました。コンサートは、大人から子どもまで楽しめる多彩な曲目で構成され、詰めかけた約500人の市民は演奏が終わるたびに大きな拍手を送っていました。家族で訪れた鹿川晴斗くん(10・堀金三田)は、「消防団の制服姿がかっこよかった。迫力があってドキドキした」と目を輝かせていました。音楽喇叭隊は、吹奏楽形式の「音楽部」と消防ラッパによる「喇叭部」で編成。消防団活動や式典での演奏をはじめ、地域のイベントなどで演奏をし、音楽を通じた予防消防活動を行っています。